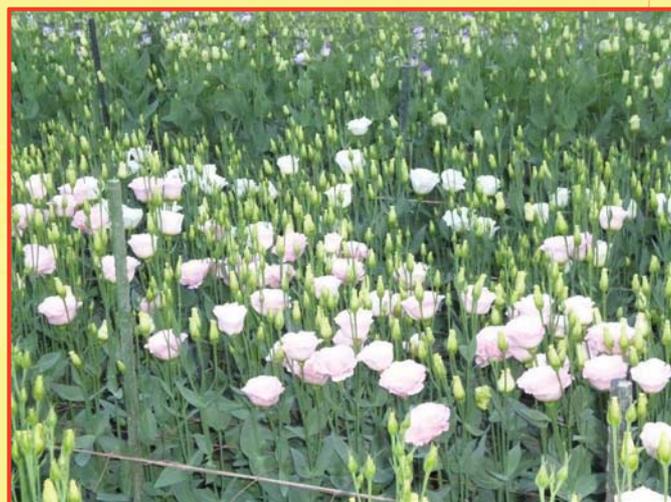


# 「福島県川俣町山木屋地区における トルコギキョウ復活の取組」

平成26年12月18日

あぶくまカットフラワーグループ



## Content of the lecture

- ◆ あぶくまカットフラワーグループとは・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- ◆ 原発事故で計画的避難区域へ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- ◆ トルコギキョウ栽培復活へ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- ◆ 強い決意と危機感と・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
- ◆ 避難区域であるがゆえに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
- ◆ いざ、実証栽培へ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
- ◆ 生育経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
- ◆ 現地検討会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
- ◆ 品質評価（求評）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
- ◆ 平成26年の本格栽培に向けて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
- ◆ 営農再開までもうひと山・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
- ◆ ついに営農再開・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
- ◆ 出荷まえ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
- ◆ 念願の出荷ができませんでした・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
- ◆ 西川大臣に来ていただきました・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
- ◆ 26年の生産・出荷はどうだったか・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19
- ◆ 新たな仲間か、ライバルか？・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
- ◆ 参考資料 (1)補助事業と実証栽培のあらまし
- ◆ (2)営農再開に向け活用した事業

# 1 あぶくまカットフラワーグループとは

1. 私たちのグループは福島県伊達郡川俣町山木屋地区で、トルコギキョウを中心に切り花等を生産する8戸の花き農家の集団(任意組織)です。

## 2. 震災前の実績

- ・栽培面積: 3.2ha
- ・年間売上: 約8千万円
- ・出荷先: 関東の市場等



1

## 2 原発事故で計画的避難区域へ

1. 福島第一原発の事故で、川俣町山木屋地区は、全域が「計画的避難区域」に指定され、今も全世帯が避難しています。

2. そのため、

- ・育苗中の苗や栽培ハウス、資材などもそのまま放置
- ・平成23年の栽培は中止
- ・平成24年も2年連続で中止せざるを得なくなりました。



2

### 3 トルコギキョウ栽培復活へ

1. 私たちは、
  - ・「避難後も一日も早い営農再開」を要望していました。
  - ・「試験的な栽培を始めたい」との意向を国、県、町等の関係者に伝えていました。



2年経過した農地

2. 避難区域における栽培の可否や補助事業等の可能性、などについて、関係者が集まり検討を重ねました。



除染中のハウス

3

### 4 強い決意と危機感と

1. 仮に国や県からの補助などがなくとも、「自力でも実証栽培を行う」つもりでした。



自力でも

2. もし、ここで始めなければ「市場の自分たちのセリ順がなくなってしまうかも」という強い危機感がずっとありました。



この花をもう一度

4

## 5 避難区域であるがゆえに

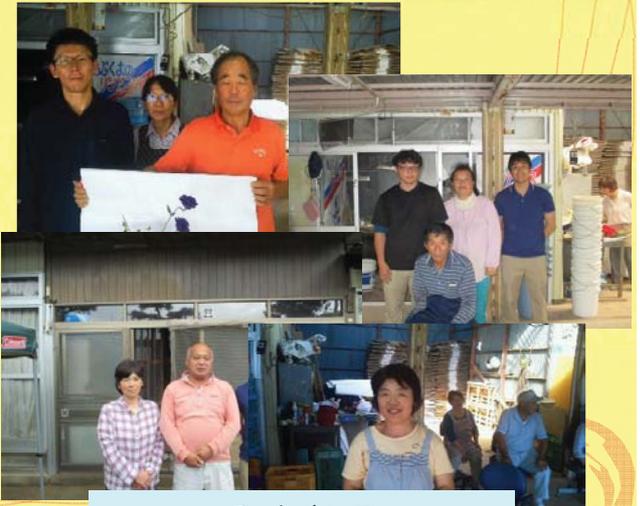
1. 「平成25年度福島県営農再開支援事業」を活用した避難区域内でのトルコギキョウの実証栽培に全員で取り組む。



苗の確保も

2. 避難区域であるがゆえに、

- ・作業時間に制限
- ・仮設住宅からの通勤農業
- ・栽培のための水質確保などの課題もありました。



みんな

5

## 6.1 いざ、実証栽培へ その壱

1. 生産者としての実証栽培の課題



①栽培を休止して、土壌等に変化はないか。

⇒2年間手つかずのほ場は大丈夫なのか？

②以前と変わらない収量品質を確保できるか。

⇒自分たちの技術力は落ちていないか？

③花き関係者からの求評、アドバイスを活かす。

⇒市場の売れ筋は変わっていないのか

自分たちは評価はどうか？



6

## 6.2 いざ、実証栽培へ その3

2. 「自分たちのセリ順」を維持するためには、市場からの評価を得る事が絶対必要で、産地の死活が懸かる重要な課題



“セリ順”を守ること

3. 実証には“除染”が必須

- ①ハウスの周辺の表土除去
- ②被覆ビニール等の交換
- ③貯水・沈殿槽の濾過装置へ放射性物質吸着材を投入



“除染”は必須

7

## 7.1 生育経過

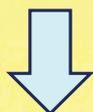
1. 6月2日に本葉1.5～2対の苗を定植



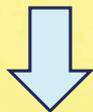
2. 7月中旬チップバーン発生



3. その他の病害虫は少ない



4. 収穫までおおむね順調



5. 生育は全般的に震災前と同程度



チップバーン（葉先枯れ症）の発生状況

8

## 7.2 は種～定植



は種:平成25年4月5日



定植:平成25年6月2日

9

## 7.3 伸長～収穫



7/1



7/16



8/1



8/15



9/3



9/13

10